

子どもの成長を支援する取組

～学校・公民館・地域による学社連携を通して～

福岡市 早良公民館【公立公民館】 館長 上 蘭 幸 則

1. 地域の概要

- 昭和59年に内野小学校の大規模校解消のため、早良小学校が開校し、早良校区が誕生した。早良区の中では新しい校区である。面積は狭く、人口も少ない校区であるが、地域内に室見川支流の八丁川が流れ田畑が広がり、周囲は背振山系や油山山系に囲まれた自然豊かな地域である。
- 早良校区の一番の課題は高齢者の増加が今後一段と進むことである。現在の高齢化率は35%(平成30年3月末現在)で、高齢者の1人暮らし世帯、夫婦高齢者世帯も多い。地域諸団体やボランティアを中心に高齢者世帯の見守り活動を行っている。そして、平成29年2月から高齢者の生活支援として「手伝い隊」、9月から「買い物支援」等により高齢者が地域で生活していくための支援活動も行っている。
- 小学校開校時は19学級506名であったが、現在は7学級194名である。少子化により学校と地域が一緒になって行う親善合同運動会や音楽発表会・人権の集いは3世代が参加し、子どもの成長を見るとともに交流する場となっている。

2. 事業名

- (1) 認知症キッズサポーター教室
- (2) ジュニアリーダーキャンプ
- (3) 早良小学校音楽発表会・早良校区人権の集い

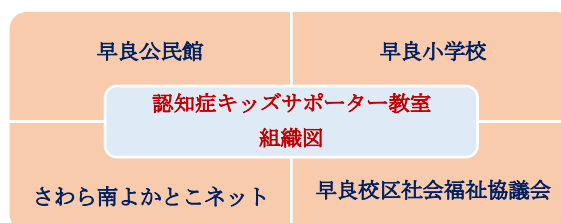
3. 事業内容・連携協力団体

- (1) 認知症キッズサポーター教室

【連携協力団体】 早良公民館、早良小学校
さわら南よかこネット
早良校区社会福祉協議会

【事業内容】

早良校区では、公民館と校区社会福祉協議会の共催で平成29年度から3年計画で認知症サポーターステップアップ講座を行っている。平成29年度は「認知症について知ろう」、平成30年度は「事例をもとに自分たちで出来る支援を考える」という内容で実施した。そこで、「小学校でも地域の状況を考慮して認知症の学習をしませんか」と呼び掛け、認知症キッズサポーター教室を「さわら南よかこネット」の協力で小



〔認知症の人への声かけ・・・よい例、悪い例〕

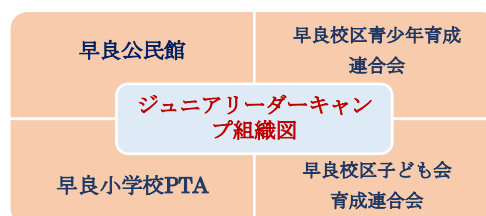
学校6年生を対象に、総合的な学習の時間を活用して9月29日に実施した。

小学校との打ち合わせを行い、「認知症はどのような病気か」「どのような症状が現れるか」「寸劇をもとにどのように声かけを行うか」等の内容で実施した。家族で介護した体験のある児童もいたが、ほとんどの児童は認知症について初めて学習する機会となった。



(2) ジュニアリーダーキャンプ

【連携協力団体】 早良公民館、早良小学校PTA
早良校区青少年育成連合会
早良校区子ども会育成連合会



【事業内容】

小学生対象に青少年育成連合会と熊山おやじの会を中心に、平成27年度まで校区外の施設で夏休みにキャンプを実施してきた。参加者も減少しており、平成28年度から公民館と小学校PTAも加わり、早良小学校で1泊2日のジュニアリーダーキャンプを実施している。キャンプの初日に公民館事業として「ものづくり教室」を担当している。6人の班で、平成28年度は竹燈籠づくり、平成29年度はかかし作り、平成30年度は各人で竹を使っての遊具づくりを行った。竹燈籠づくりでは電気ドリル、のこぎり等を使って模様や文字を表す作品を作った。かかし作りでは木の骨組みにペットボトルを付けて作成し、公民館前の田んぼに立てた。竹の遊具作りは学年ごとに竹トンボ、竹馬、水鉄砲、竹カップ、箸等を作った。日頃、学校では使用しない機械や木工具、ナイフを使い、各班に補助員を配置し、安全な使用法も教えて作業を進めた。



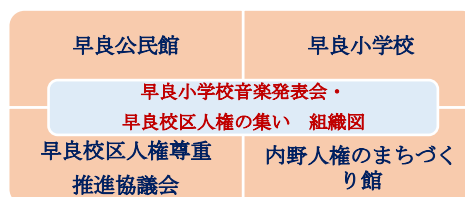
〔竹馬づくり・・・5年生〕



〔箸づくり・・・3年生以下〕

(3) 早良小学校音楽発表会・早良校区人権の集い

【連携協力団体】 早良公民館、早良小学校
早良校区人権尊重推進協議会
内野人権のまちづくり館



【事業内容】

小学校音楽発表会と校区人権の集いを合同で行うようになり、今年度で10回目

になる。小中学校の担当職員も人権尊重推進協議会の事務局として、企画立案等に参加している。小中学生から人権ポスターや人権標語を募集し、運営委員による審査を経て、人権の集いにおいて、ポスター及び標語の表彰を行った。

人権の集いは一部を音楽発表会、二部を講演会の形式で行い、小学校保護者、地域住民、公民館サークル会員など、550～600人が参加しており、参加年齢層が幅広いことから、音楽（語りと演奏）や一人芝居、朗読などの講演を行っている。



〔全体合唱〕



〔講演はmonさんの語りと演奏〕

4. 事業の成果

- 認知症キッズサポーター教室は、地域から学校への働きかけで実施出来た。認知症に関することを初めて知った児童も多数いた。寸劇を通して高齢者との接し方の学習を取り入れたことは良かった。高齢者や周りの人に優しく接したいという感想が多かった。
- キャンプの製作教室では学校で使う機会のない小刀、電気ドリル、のこぎり等を安全に使用しての作業ができた。グループで協力して完成する喜びも感じたと思う。
- 音楽発表会は、住民の感想として「児童の一生懸命な姿に感動した」「来年も楽しみにしている」など好評である。人権の集いの講演会を平成30年度は小学校PTAと共催にした。小学校成人教育委員会の働きかけで多くの保護者が参加したことは良かった。

5. 今後の課題

- 認知症は脳が委縮して起こる怖い病気というイメージのない学習にしたい。今年度は教育委員会からの依頼で行ったが、今後も学校に働きかけて「さわら南よかこネット」の協力で取り組んでいきたい。
- いろいろな工具や機械を使うため、特に安全面に留意している。グループの指導者の確保、事前学習を徹底出来ていない課題がある。この行事を通して地域の人材発掘が出来たらと思う。
- 音楽発表会で自分の子どもの出番が終わると帰る保護者も多い。子どもと一緒に学ぶ人権学習にしたい。人権の集いの参加者は小学生から高齢者が対象であるため、講師の選定は限られている。

問合せ先

〒811-1122 福岡市早良区早良2丁目9番33号

福岡市早良公民館

TEL:092-804-2420

FAX:092-804-2448

E-mail:sawara74@jcom.home.ne.jp